

新生美術館基本設計の検討状況について

1 設計の基本的な考え方

- 新生美術館基本計画（平成25年12月策定）に沿って、「神と仏の美」、「近代・現代美術」、「アール・ブリュット」を柱とし、
 - ①指定文化財が保管・展示できる文化庁の公開承認施設として承認されること
 - ②新たな時代にふさわしい、魅力的な場にする
 - ③「開かれた美術館」として多くの県民や地域とつながることを設計にあたっての基本的な考え方とすること。
- さらに、公募型プロポーザルで設計者が提案した、分棟型の回遊式庭園美術館のコンセプトを踏まえること。
〔分棟型の回遊式庭園美術館のコンセプト〕
 - ①新館にエントランスの顔を新たに創り出し、既存館の良さを継承・展開しながら新旧を統合した新しいイメージ。
 - ②公園の中に美術館を溶け込ませ、夕照の庭など周りの風景に調和させるという景観面への配慮。
- その上で、新生美術館の予定工事費を47億円とすること。
こうした基本的な考え方を基に、昨年4月より基本設計を進めている。

2 これまでの基本設計検討経緯の内容

- 上記「設計の基本的な考え方」を踏まえ、文化庁等との協議をはじめ、県民や関係団体、寄託者の方との意見交換を重ね、基本設計案を詰めている。
- 特に、公開承認施設の承認に関しては、主に次の点について対応を図ってきた。
 - ①文化財の展示に対応した展示室の新設
 - ②文化財の移動を踏まえた企画展示室と収蔵庫の配置
 - ③収蔵庫の一部地上化と地下収蔵庫の縮小
- 既存館の設備改修について、更新が必要な設備が多く、増加費用が見込まれたが、既存館改修、新館増築の基本設計業務について様々な角度から検討し、予定工事費47億円以内で対応する。

3 今後の検討方針

- 「設計の基本的な考え方」を踏まえ、予定工事費47億円以内で設計業務を進める。
なお、基本設計については、予算繰越を議会で認めていただいた上で、公園整備の基本設計と併せて、本年5月末を目途に取りまとめる。
- 琵琶湖文化館の機能継承をはじめ、作品収集・制作、情報システムなどの運営面、ソフト面について、経費削減も含めさらに検討を進める。

新生美術館整備のスケジュール（案）

※ 指定文化財・・・国指定文化財（国宝・重要文化財）

	平成27年度 (2015年度)			平成28年度 (2016年度)				平成29年度 (2017年度)				平成30年度 (2018年度)				平成31年度 (2019年度)				平成32年度 (2020年度)				平成33年度 (2021年度)																	
	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	#	#	#	1	2
設計	基本設計			実施設計				10月 着工				11月 竣工				3月			7~9月																						
工事				許可手続				発注手続				工事（増築・既存館改修）				開館			東京オリパラ																						
展示	企画展・常設展			指定文化財 展示 クロージング				県内外での所蔵作品の貸出・出張展示、ワークショップ・トーク等の開催								開館 オープニング 展 イベント			企画展・常設展																						
公開承認 施設承認	文化庁 承認申請 (規程第4条第1項)			★ 12月 更新 指定文化 財展示①				文化庁 改築・改修申請、承認 (規程第5条第1項)											東文研による 空気環境調査				指定文化 財展示②				指定文化 財展示③			★ 12月 更新 文化庁 承認申請											